科目名	地域と社会
単位数	2単位
担当者	水田 綾奈
授業種別	講義科目

サブタイトル	主体的な市民としていかに都市に関わるか			
授業内容	本授業では、都市社会学の研究動向や関連する事例を紹介することで、都市/地域について思索し、これからどのように都市/地域と関わるができるのかについて探求する。具体的には、①都市はなにを生みだすか、②なにが都市を生みだすか、③都市とはどのような社会過程であるのか、という都市社会学を構成する3つの問いをテーマに授業を進めていく。①では、都市が私たちの生活に与える影響について、古典的な都市研究やそこから派生した諸理論を中心に概観する。②では、情報化やグローバル化といった切り口から、現代都市が直面する危機や再編といった変化について扱う。③では、具体的な都市を事例として扱い、都市を時間と空間のなかの社会過程としてとらえることで、私たちが都市/地域とどうかわることができるのかを考える。なお、授業はテキストを中心に進めるが、映像資料の視聴や学生のリアクションペーパーの共有などを通じて理解を深めていく。また、テキストに加えて関連する研究動向について、授業の後半部にて紹介する。			
アクティブ・ラーニングの要素	リアクションペーパー			
到達目標	① 社会的なものの見方ができる。 ② 都市社会学の基礎概念を理解することができる。 ③ 都市社会学の基礎理論・学説を理解することができる。 ④ 理解したことを論理的に整理し、アウトプットすることができる。 ⑤ 理解したことを論理的に整理し、独自の考察を加えてアウトプットすることができる。			
到達目標となる駿大社会人基礎力	①言語処理力/②非言語処理力/③情報収集力/④論理的・多面的思考力/⑤情報処理力/⑥構想力/⑬課題発見力			
卒業認定・学位授与方針との関連	この科目は、ディプロマ・ポリシー（全科目・法学部）の「(2) 考える力」および「(5) 総合的な力」と関連しており、地域社会現象をさまざまな角度から総合的にとらえ、都市/地域の問題解決にむけたアイデアやプロセスを柔軟に創造する力を身につける。			
関連科目	社会学A /社会学Ⅰ 社会学B /社会学Ⅱ			
テキスト・参考書等				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
都市社会学・入門〔改訂版〕	松本康〔編〕	有斐閣	978-4-641-22207-6	2022年出版の改訂版を教科書として使用。各回の授業では必ず本教科書を持ってこること。
授業外における学習方法及び必要な時間	事前学習：次回授業で扱う教科書の範囲を読む、次回テーマについて連想できる語句等を書籍やインターネットなどを使用して調べておく。(2時間) 事後学習：前回の授業内容のレジュメ・教科書を読み返す。自分なりに前回授業内容を説明できるようにする。リアクションペーパーへの回答を通して、授業内容への理解を深める。(2時間)			
成績評価方法				
評価方法	評価割合		成績評価基準等	
リアクションペーパー			30%	到達目標①から④に対応して、授業毎のリアクションペーパーの内容を評価する。
期末レポート			70%	到達目標①から⑤に対応して、筆記試験を課す。
課題に対するフィードバックの方法	授業終了ごとに提出されたリアクションペーパーの内容に対して、次回授業の最初でフィードバックを行う。			
実務経験のある教員による授業科目等				
担当教員の実務経験			実践的な教育の取組	
-			-	
授業計画				
第1回	都市社会学の問い/都市社会学の始まり			
第2回	アーバンイズム			

第3回	都市生態学と居住分化
第4回	地域コミュニティ
第5回	都市と社会的ネットワーク
第6回	都市圏の発展段階／情報化・グローバル化と都市再編
第7回	インナーシティの危機と再生
第8回	郊外のゆくえ
第9回	都市の個性とまちづくり/文化生産とまちづくり
第10回	アジアの都市再編と市民
第11回	ボランティアと市民社会/都市の防災力と復興力
第12回	都市空間の変容① 消費社会論
第13回	都市空間の変容② モール化する都市
第14回	都市空間の変容③ 都市を支えるインフラ
第15回	まとめ
第三者チェック①	<p>「授業外における学習方法及び必要な時間必須」欄の中で、授業外の学修時間を、事前学習1時間・事後学習1時間と設定していただいているところですが、半期2単位科目の場合、授業1回あたりの準備学習（予習・復習）時間は4時間となっていますので（「2025年度シラバス作成について」P6）、調整をお願いします。</p> <p>2025.1.23 福島確認 2025.2.4 福島修正確認済</p>
第三者チェック②	修正なし 2025.2.16 笹岡
第三者チェック③	